

日本電気硝子 (コード 5214)

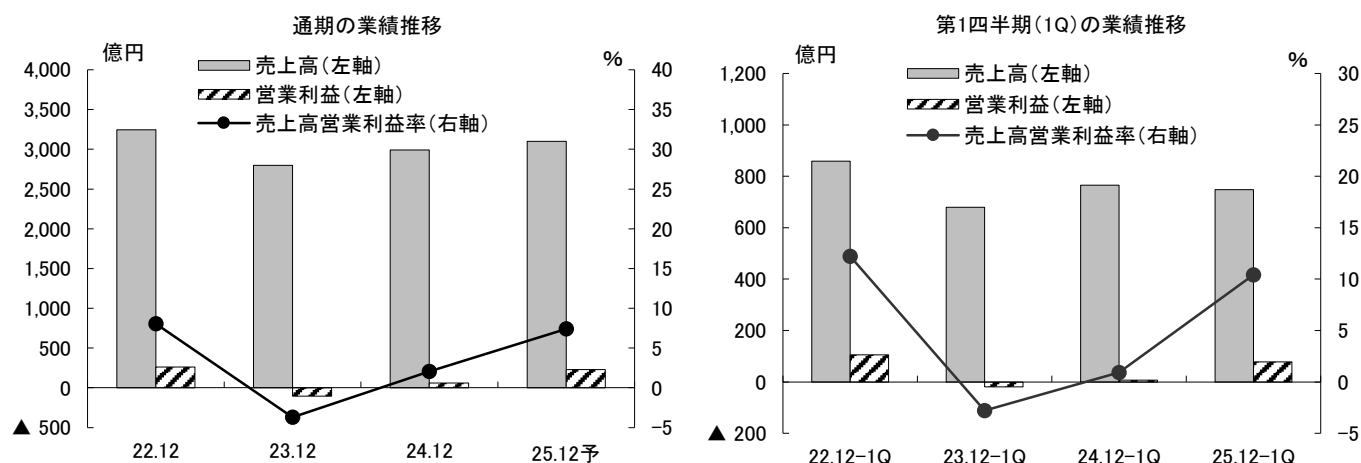
◆各決算期の第1四半期業績推移(連結) (第1四半期のCFは非開示)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.12	85,991	10,515	153.6	—	—	—	—	—
23.12	67,922	▲1,941	9.1	—	—	—	—	—
24.12	76,656	765	224.6	—	—	—	—	—
25.12	74,847	7,897	62.5	—	—	—	—	—

◆通期業績推移(連結) (25.12 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.12	324,634	26,184	302.8	120.0	31,563	▲57,155	▲5,874	106,862
23.12	279,974	▲10,420	▲282.9	120.0	▲1,360	▲20,777	▲11,572	75,083
24.12	299,237	6,120	141.7	130.0	52,200	42,601	▲48,832	123,582
25.12予	310,000	23,000	199.6	145.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



25年12月期第1四半期の業績概況…25年12月期第1四半期(25年1～3月)は、主に電子・情報セグメントのディスプレイ事業において前期に在庫が払底したことなどから、売上高は前年同期に比べ約2%減少した。一方、利益面では、電子デバイス事業での増収などにより、営業利益は前年同期実績の10倍強へと急拡大した。

当期の業績は、売上高748億4,700万円(前年同期比2.4%減)、営業利益78億9,700万円(同931.8%増)、経常利益61億100万円(同31.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益(以下、四半期純利益)50億800万円(同74.5%減)となった。営業外費用において、海外子会社の借入にかかる債権債務の評価替えによる為替差損を計上したことなどにより、営業利益に比べて経常利益の伸び率は押し下げられた。また、主に藤沢事業場跡地の売却などによって前年同期に多額の特別利益を計上した反動もあり、四半期純利益は前年同期実績を下回った。

製品セグメント別の売上高(億円単位)は、電子・情報406億円(前年同期比2%減)、機能材料342億円(同3%減)で、売上構成比率は前年同期並みの電子・情報54%、機能材料46%となった。電子・情報において、ディスプレイ事業は、堅調な需要が続いて販売価格も上昇したが、前期に在庫が払底したことから売上が前年同期実績を下回った。電子デバイス事業については、半導体向け及びデータセンター向け製品の需要が好調に推移し、売上が増加した。機能材料

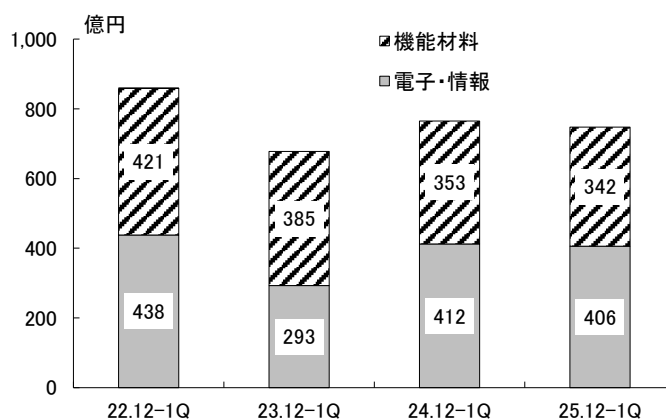
においては、医療事業が販売数量の回復や販売価格の改定によって売上が増加し、耐熱及び建築事業についても売上は前年同期並みと堅調に推移した。一方、複合材事業では厳しい競争環境が続いて販売が低迷したことから、売上は前年同期を下回った。

利益面では、電子デバイス事業の増収やディスプレイ事業の販売価格引き上げに加え、生産性の改善、物流費用の低下によって、売上総利益は前年同期比 38.4%増となり、売上総利益率が 24.9%（前年同期は 17.5%）へと大きく改善。販管費についても同 15.5%減となり、売上高販管費率が 14.3%（前年同期は 16.5%）に低下し、営業利益は大きく増加した。営業外費用で為替差損 26 億 6,200 万円（前年同期は営業外収益で為替差益 30 億 6,500 万円）を計上し、増益率において経常利益が営業利益を大きく下回った。また、特別利益における固定資産売却益及び投資有価証券売却益が合わせて 26 億 1,900 万円（前年同期比 88.8%減）となったことなどから、四半期純利益は大きく減少した。

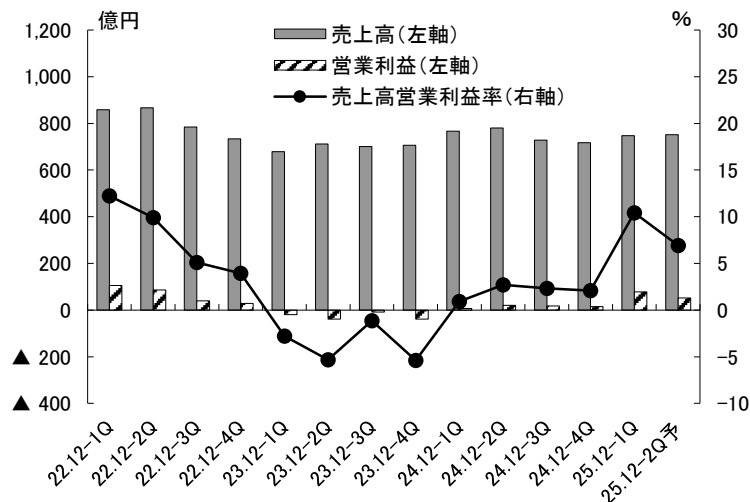
25 年 12 月期の業績見通し…25 年 12 月期においては、右グラフの通り、第 1 四半期に続いて第 2 四半期（25 年 4～6 月）も 22 年 12 月期並みの利益率で推移することが見込まれている。第 2 四半期累計期間（25 年 1～6 月）の業績は、売上高 1,500 億円（前年同期比 3.0%減）、営業利益 130 億円（同 352.1%増）、経常利益 110 億円（同 7.0%増）、四半期純利益 110 億円（同 63.6%減）の見通しで、25 年 2 月 5 日発表の会社側予想値から営業利益、経常利益、四半期純利益（すべて修正前 100 億円）から増額修正された。

通期予想についても、売上高 3,100 億円（前期比 3.6%増）、営業利益 230 億円（同 275.8%増）、経常利益 210 億円（同 69.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益（以下、当期純利益）160 億円（同 32.3%増）の見通しで、25 年 2 月 5 日発表の会社側予想値から営業利益、経常利益（ともに修正前 200 億円）、当期純利益（修正前 150 億円）が増額修正されている。

第1四半期(1Q)の区分別売上高推移



四半期(Q)ごとの業績推移



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。